
HELLO BROTHER

夕焼け

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

HELLO BROTHER

【Nコード】

N0422B

【作者名】

夕焼け

【あらすじ】

ジョンレノンは言った。「想像してごらん？」すばらしい言葉だね。強要でもない、押し付けでもない。それでいてものごとを推し進めるちからを持っている。みんなも、ほんの少しだけ想像してごらん。

最近ね、地球の丸さについての研究に全てを捧げるような人生も悪くはないかもしれないな、と考えるようになった。

地球って実はまんまるじゃないんだよね。

こう、ゴムボールのてっぺんと底を軽くつまんだくらいにへこんでるんだって。

なんだか素敵だね。

僕は後悔してるのがたくさんある。

ほんとうにたくさんある。

でも後悔の気持ちって悪くない。

あれだけひどい事を沢山してきたんだから、このくらいの不都合で不満を垂れてちゃだめだよな、って辛い時にも思えるから。

そう、ずるいんだ。

だから「後で考えたら後悔しちゃうだろうな」って事すら結構平気で出来ちゃう。

言い訳ならちゃんと用意してあるから。

悲しい事って連鎖するんだ。

みんなが手を差し伸べるのは「本当に助けを必要としてる人」じゃなくて、

手を差し伸べる事で心の充実を得られる相手ばかりだから。

だから本当に助けを必要としてる人はもともと不幸になる。

「なんだかんだいってそんなに不幸じゃない人たち」ばかりが手を取り合い助け合う。

本当に不幸な人たちはいつだって蚊帳の外だ。

救助の対象外なんだ。

だからぼくはきめたんだ。

名前を知らない人にこそ、顔を知らない人にこそ僕は实际的な施しをしようってね。

だって目の前でかわいい赤ん坊が重い病を患ってて、

ドナーを必要としてたら、その子に手を差し伸べる人は結構いると思うんだ。

でもね、誰も知らないような土地で、

報道もされないような土地でだって苦しんでる人はたくさんいる。

むしろそういう場所で苦しんでる人のほうが、

その苦しみを誰かに知ってすらもらえないわけだからもっと絶望的

だ。

知り合いが本当に苦しんでたらみんなだって手を差し伸べてあげると思うんだ。

出来る範囲のことくらいはしてあげれると思うんだ。

じゃあなんで世界の裏側の人たちには手を差し伸べられないのか？
国境なんていう見えない線を挟むと途端に「他人事」になっちゃうのか？

きっと相手の姿形が見えないからなんだね。

ならみんなをつないじゃえばいい。

みんなを「身内」にしちゃえばいい。

僕が高校生のとき、頭に障害を抱えた子がクラスにいたんだ。

彼はいつも苛められてた。

僕はある時彼に「なんでやりかえさないのか？」と聞いてみた。

彼はこういった。

「それは、僕にとって彼らは兄弟だからです。

人類みんな兄弟なんです。

誰だって兄弟からちよつとちよつかい出された位で深く憎んだりは
しません。

だから僕はこの位で不愉快になったりしないんです」

やっぱり頭の弱い子なんだな、とその時は思った。

だって自分がクラスで苛められてて普通そういう考えにはならない
ものね。

でも僕はその彼の眼差しに何かを感じないわけにはいかなかった。

彼は勉強が出来ない。
記憶障害があるから。
普通の子みたいな考え方や、遊び方も出来ない。

でも、彼の言葉には途方もない力強さがあった。
きっと「人類皆兄弟」その言葉だけを信じて、貫いて、
あらゆるつらい事に耐えてきたんだろう。
その言葉が正しいかどうかじゃない。
ただ、生きるために。

僕もそれに乗ってみることにした。
人類皆兄弟。
ばかげてる？
本当にそう思うかい？

誰かが引いた境界線。
あっち側とこっち側。

血のつながり？
DNA鑑定でもしなきゃ他人かどうかなんて証明も出来ないくせに、
ただ関わりの薄い人はすべからく他人？
関わりの薄い人たちは不幸になってもいい？
家族でも？

目に見えない線の向こう側での出来事はもう他国のこと？

境界線をその目で見る事も出来ないのに？

他国？

他国ってなんだ？

誰が決めたの？

昔のどっかの偉い人が言いました。

この線からこっちが僕の国、この線からあっちがあなたの国。

そんな線がそんなに大事？

僕にはわからない。

僕にとってはそんな線の有無より、

その悲しい出来事の在り処より、

その悲しみそのもののほうがよほど重大な問題だ。

ねえ、わかってくれよ。

「とても悲しいんだ。

誰か助けてくれよ。

この際僕のことなんてどうでもいい。

僕の子供を助けたいんだ。

僕の好きな子を助けたいんだ。

ほんのちよつとあなたが手を貸してくれたら助けられるんだ。

このままじゃ愛する人が死んじゃうんだ。

ねえ、お願いだよ。」

今日だって、今だってどこかで誰かが、
愛する人を助けたくて、助けられなくて叫んでる。
耳を澄ましてみてよ。
国境線なんて消しちゃおうよ。
きつと聴こえる。

地球は丸いんだもの。

あっちの方にずーっとまっすぐ行けば、いつかその人たちと触れ合える。

さらにずーっとまっすぐ行けば、またここにたどり着く。

そう、きつとそのために神様は地球を丸く作っただ。

やあ兄弟。

地球の裏側の名前も知らない街で僕が彼らにそう言ったなら、
あるいはあなたが彼らにそう言ったなら、

彼らはどうしてその声を振り払う事が出来るだろう？

きつと彼らもこういうはずだ。

こんにちは兄弟。

ねえ、君はいつか言ったね。

今あるものだけでは満足できないんだって。

財布の中身がいくらであれそれに満足する事はできないんだって。

だからもっと多くのものを手にするんだって。

その「欲しいもの」は、「もっと多くのもの」は

彼らと兄弟のように分かり合う事よりもきみを幸せに導いてくれる

のかい？

それほどまでに大事なものののかい？

ねえ、一度立ち止まって想像してごらん。

君が今ある自分で満足できなくて、今ある暮らしに満足できなくて、とても寂しくて辛い時、

地球の裏側から一通の手紙が届いたら、

こんにちは兄弟、元気にしてるかい？

ってただ一言言葉が届いたら、

自分なんかよりもっともっと過酷な環境で生きる彼らから、

「あなたの幸せを本当に祈っているよ」

って言ってもらえたら、

それでも君は自分を孤独で不幸な人間だっというのかい？

自分の人生に満足は出来ないかい？

ねえ、君の孤独や不満の半分はきっと色々なもののせいで生じたものなんだろう。

でも、残りの半分はきつと君の責任でもあるんだよ。

きつと君にだってまだまだ満足のいかない事は沢山あるだろう。でもね、それを満たす方法をもう一度考えてみてごらん。

もつといいものを手に入れたら幸せかい？

もつと大きな家に住めたら幸せかい？

もつと上の地位を手に来れば幸せかい？

その為の為に頑張るのかい？

君はいつか言ったね、ここで満足してちゃいけないんだ、と。

それは本当に満足しちゃいけない場面なのかい？

そこは譲ってしまっても本当はいいんじゃないのかい？

君が向上心をもって本当に頑張ってるのはよく知ってる。

そこでひとつだけ僕から提案があるんだ。

自分の欲を叶えていく方法以外で向上心を満たす方法がある。

もちろん妥協や甘えではなくてね。

少しだけ、ほんの少しだけでいいからそういった、

自分を満たす為だけじゃない向上心にも目を向けてみて欲しいんだ。

きつと君が辛い時、苦しい時、寂しい時にこそ彼らは素敵な気持ちを君に届けてくれるだろう。

君の人生が君にとって本当の意味で有意義である事を祈る。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0422b/>

HELLO BROTHER

2010年11月20日15時16分発行